2021年度学位授与式 学長式辞

卒業生の皆さん、本日はご卒業おめでとうございます。ご父母の皆様におかれましてもお慶びのことと存じます。心よりお祝い申し上げます。

感染状況によっては開催が危ぶまれていましたが、本日ここに、経済学部、理工学部、文学部、法学部の4つの学部、および経済経営研究科、理工学研究科、文学研究科、法学政治学研究科の4つの研究科、これらすべてを合計して1800名余りの卒業生、修了生の皆様をお迎えし、学位授与式を挙行できることは誠に嬉しい限りです。これまでに経験したことのない新しい生活様式、オンライン授業など、環境の激変に耐え抜いて見事に学位記を掴み取ったみなさんの努力に心から敬意を表し、お祝いの言葉を贈り、みなさんの社会への旅立ちを見送りたいと思います。

みなさんが入学した2018年当時に、まさか2年後に未知のウイルスによるパンデミックが世界を襲い、4億人以上の人が感染し600万人以上の人が亡くなるという事態は、想像することすらできなかったと思います。多くの大学行事が中止となり、楽しいはずのキャンパスライフが一瞬にして消失しました。留学などの教育プログラムも中止を余儀なくされ無念の思いでいっぱいでした。それでも教職員・学生が力を合わせて、オンラインを駆使して懸命に何かできることはないかと工夫を続けました。とりわけ学生の皆さんが懸命に企画して、樺祭や学内運動競技大会などを感染防止の工夫しながら実施できたことに、あらためて成蹊大生の底力を見る思いがいたしました。

私は、数年前から卒業式のたびに、みなさんがこれから足を踏み入れていく社会は、「何が起きるかわからない」「何が起きてもおかしくない」社会だと言いつけてきました。ビジネスの世界などでよくVUCA（ブーカ）の時代と言われているものです。VUCAとは、Volatility（変動性）、Uncertainty（不確実性）、Complexity（複雑性）、Ambiguity（曖昧性）の4つの頭文字をとったものです。平たく言うと、わけのわからない時代、予測不可能な時代というニュアンスになるかと思います。

VUCAの時代を乗り切るための行動フレームとしてよく取り上げられるものに「ウーダグループ」と呼ばれるものがあります。ウーダは「OODA」と書きますが、これはObserve、Orient、Decide、Act、の4つの頭文字をとったものです。Observeは観察する、情報を集めるということであり、Orientはその観察して得られた情報をもとにして自分の位置を確認し進むべき方向を探るということです。例えば目を開けたら見慣れない風景が回りに広がっていた時、「ここはどこなのか」「自分はどこにいるのか」ということを必死で回りを観察して考えると思います。ObserveからOrientへのながれはそう言う状態を指しています。OODAグループの中で最も大切な部分です。そして方向感覚が定まったら、意思決定（Decide）することになります。そして決めたらすぐに動くこと（Act）です。今ロシアに工場や営業所をもっている日本企業の経営者は、このOODAグループを高速に回転させているはずで、情報を集め、ロシアにおける事業の在り方について方向性を定め、意思決定して実行する、ということ、時々刻々と移り変わる状況の中で可能な限り情報集めて、素早く決断しなければならない状況におかれていると思います。

今まさに、核兵器を保有する国が核の脅威を振りかざしながら他の国に攻め入るなどという耳を疑いたくなるような事態が進行しています。世界の多くの国がロシアに対して資産凍結などの前代未聞の経済制裁を展開しています。遠い国の出来事と感じている人も多いかもしれませんが、そうではありません。例えば、

ロシア中央銀行が日本銀行に預けている資産は約4兆円ありますが、これを1円たりとも引き出すことを許さないという措置を考えてみると、これはもはや武器こそ使用しないものの経済を使った喧嘩であると言っても過言ではありません。

いままさに世界史の大きな転換点に立っており、私たちはその目撃者になっているわけです。さらにまた日本経済には折からのコロナ禍による不況に加えて、強いインフレ圧力がかかり始めています。今後の状況によっては、オイルショック以来およそ50年ぶりとなる強烈なスタグフレーションに見舞われる可能性がでてきています。最近「親ガチャ」という言葉が流行りました。どの親の下に生まれてくるかで「アタリ」と「ハズレ」があるということの意味しています。それになぞらえて「時代ガチャ」という言葉も出てきました。自分が生きる時代にも「アタリの時代」と「ハズレの時代」があるということを表しているようです。しかし時代は決して「ガチャ」ではありません。未来は変えられるんです。「壁は乗り越えられる者の前にしか現れない」というイチロー選手の言葉がありますが、いままさに私たちの眼前に立ちはだかる時代の荒波は、「これを乗り越えてみろ。」と天から言われているような気がしてなりません。これからの歴史のながれと世界の秩序が、われわれにとって幸福なものになるのか、あるいは悲惨なものになるのかは、私たち自身が責任を負っている問題なのだと思います。

現代はVUCAの時代ではあっても情報だけは周りに溢れかえっています。正しい情報なのかどうか、自分にとって有益な情報なのかどうか、情報が多すぎて混乱することが多いと思います。「新型コロナはただの風邪だ」という人もいれば、「新型コロナは後遺症の残る恐ろしい病気だ」という人もいます。「日本は核武装するべきだ」という人もいれば「憲法9条を変えてはいけない」という人もいます。何が正しいのかは、自分自身で調べ、勉強し、自分自身の頭で考えるしかありません。VUCAの時代には、次々と新しいことが起こり、次々と新しい情報が入ってきます。自分の進むべき方向を決めるためには勉強し続けるしかありません。

歴史がどう変わろうとしているのか、その中で自分はどこに立っているのか、自分はどの方向に行けばよいのか、自分自身で考えてみてください。学ぶことを止めないてください。調べる考える、調べる考える、調べる考える、この苦闘を通じてのみ物事の本質に迫ることができます。みなさんは既に大学で物事を掘り下げて考えるトレーニングを受けてきたはずです。ぜひそれを自分自身の人生に活かしてってください。VUCAの時代に新しい社会秩序をつくっていくのはみなさん自身です。コロナ禍を乗り越えて学位記を手にしたみなさんなら必ずできると思います。どうか自信と誇りをもって、成蹊大学の正門から堂々と胸を張って旅立って行ってください。いつの日かコロナ禍が終わり、落ち着いた社会になったとき、満開の桜の下でみなさんとお酒などを酌み交わす日がくることを心から楽しみにして、私からのお祝いの言葉を終えたいと思います。また会いましょう。

2022年3月19日
成蹊大学長 北川 浩